

建築主：清水建設株式会社 小川 哲也
 設計者：清水建設株式会社 竹内 雅彦、中川 健太郎、島崎 大
 施工者：清水建設株式会社 金子 裕介



建物外観

建築概要

建設地：東京都中央区京橋 2-16-1
 建築主：清水建設株式会社
 設計：清水建設株式会社一級建築士事務所
 施工：清水建設株式会社
 建築面積：2,170 m² 延床面積：51,356 m²
 階数：地上 22 階、地下 3 階 高さ：106m
 構造種別：鉄筋コンクリート造、鉄骨造

選評

1.6m 間隔に並んだ細い柱が 110m の高さから真直ぐに降りてきて、2 階の大きなプレストレス大梁を隔てて 1 階の太い柱に集約されている。それが、この建物に洗練された落ち着きと安定感を与えている。

地下 1 階と地下 2 階の間に免震層を設けた中間階免震構造を採用している。基準階は、中央コア部を囲う RC コアウォールと外周の PC フレームで構成することにより、執務空間を柱型の一切ない空間（コラムレスオフィス）としている。免震を利用した合理的な構造計画がなされたものと評価できる。

前述の縦方向の細長い柱は、3.2m × 4.2m の格子状の PC パネルによって表現されており、このパネルはアルミキャスト（アルミニウム casting）にコンクリートを打設して一体化し、現場で外周に積み上げて施工している。これにより剛性の高い外殻構造を構築すると同時に耐久性とメンテナンス性に富む外壁を創り上げることに成功している。

この建物の建設にあたって、「ものづくりのプロセスをかたち」をテーマに掲げ、各所にそれが具現化されている。なかでも印象的なものは、地下 1 階から 2 階までのコアウォールの一面並びに 1 階ピロティの外周柱に施された、杉板本実（ほんざね）型枠を用いた高強度コンクリートの化粧打放し仕上げである。この建物を訪れる人々を強く惹きつけるであろうその年輪模様をテーマに対する意気込みを感じた。（安達 洋）

免震化した経緯及び企画設計等

本建物は地域を守る防災拠点としての機能を持たせ、災害発生時には中央区と連携して帰宅困難者を支援する地域防災センターとなるよう計画された。そのため、高さ 100m を超す超高層オフィスに RC 免震構造を採用し、大地震後にも本社機能を維持するばかりでなく、震災対策の拠点となるべく備蓄品を含め災害に対する備えを充実させている。

建物の構造は基準階の中央コア部を囲うように配置されたコアウォールを芯とし、外周の PC フレームを殻として、建物を内と外から支える計画である。コアウォール+外周 PC フレームによる高剛性の上部構造を採用することで、超高層ながら上部構造が剛体的挙動を示す、免震効果の高い建物の実現を目指した。

技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

新しい本社の建設にあたっては、「ものづくりのプロセスをかたち」をテーマとし、完成物のみならず設計から施工にいたるプロセスをかたちとして建物に刻むこと自体が、次世代のものづくりに向けたメッセージとなると考えた。

アルミキャストに覆われた外装の PC フレームや建物内部のコアウォール、低層部の本ざね型枠によるコンクリート化粧打放し、エントランスホールなどは躯体が形づくられるプロセスをそのまま建築として表現したものであり、この建物を特徴付ける大きな要素であるが、いずれも免震構造との組合せにより実現した取組みばかりであり、数多くの実験・技術的検証を繰り返して現在の形に結実している。



1 階エントランス

コアウォール本実打放し
 （撮影：すべて(株)PD システム）